Ⅵ. ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBR)

1. ナショナルバイオリソースプロジェクト(ニホンザル)の活動

平成１４年度から文部科学省により開始されたナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の一環である。自然科学研究機構生理学研究所を中核機関、京都大学霊長類研究所を分担機関として、安全で健康なニホンザルを日本のさまざまな研究機関に供給することを目的として実施している。平成２４年度より第３期（５年計画）に入った。現在、約４００頭のニホンザルの３分の２を小野洞キャンパス（第２キャンパス）内で、３分の１を官林キャンパス（第１キャンパス）内で飼育している。

平成２４年度より中村克樹を管理責任者として実施している。平成２７年度より日本医療研究開発機構（AMED）のプロジェクトとなった。平成２７年度の実績は以下の通りである。１）今年度は霊長類研究所からのみ７９頭の提供を実施した。また、すべての個体の出荷検疫を霊長類研究所で実施した。ユーザーの希望を満たすため年３回の提供を行った。２）運営委員会・供給検討委員会等に委員として参加し、プロジェクトの円滑な運営に貢献した。３）事前講習会や実習を通じて、ニホンザルを用いた研究者の教育や指導を行った。４）サルの疾病対策等に関しては、生理学研究所の個体で発症したサルレトロウィルス（SRV5）感染症に対し、DNA・RNA・抗体検査を全頭で実施した。生存している全個体で陽性反応のないことを確認した。４）広報活動および新たなユーザー開拓を目的として、関連学会等でポスター展示を行った。また、公開シンポジウムを開催し、ニホンザルを用いた HP を用いた情報発信などに努めた。

(文責：中村克樹)

2. ナショナルバイオリソースプロジェクト(GAIN)の活動

GAIN：大型類人猿情報ネットワークの展開

事業名称「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」（大型類人猿情報ネットワークの展開）。英文名称 Great Ape Information Network、英文略称は GAIN である。GAIN 事業は、平成 14 年度に文部科学省の主導で発足したナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の一環である。第 1 期（平成 14-18 年度）と第 2 期（平成 19-23 年度）の成果を引き継ぎ、第 3 期（平成 24-28 年度）についても、飼育施設と研究者を結ぶネットワークや個体情報データベースのさらなる充実をめざしている。平成 27 年度も、霊長類研究所と野生動物研究センターの両部局の共同運営事業と位置づけた。綿貫宏史朗（霊長類研究所・日本モンキーセンター赴任）と岩原真利（野生動物研究センター熊本サンクチュアリ赴任）の 2 名の研究員が実務にあたった。また親事業である「情報」を統括する国立遺伝学研究所（情報事業代表 : 山崎由紀子）から厚いご支援をいただいた。平成 27 年度事業としては、従来と同様に、死亡や出生に応じて迅速にデータベースを更新することができた。平成 28 年 8 月 7 日現在で、チンパンジー315 個体（50 施設），ボノボ 6 個体（1 施設）、ゴリラ 20 個体（7 施設），オランウータン 49 個体（21 施設）、テナガザル類 181 個体（43 施設）が国内で飼養されている。個体ごとの生年月日や家系情報に加えて，DNA 情報・行動情報についても整備をすすめた。なお，平成 26 年度からは、すでに死んでしまった「過去の飼育個体も含めた全データベース」が完成し公開されており、平成 27 年度も継続してそのバージョンアップに取り組んだ。こうした過去にさかのぼった家系情報はきわめて有益だ。平成 28 年 8 月 7 日現在で、チンパンジー1002 個体、ボノボ 9 個体、ゴリラ 119 個体、オランウータン 251 個体、テナガザル 568 個体の情報である。データベースについては、以下の和英の HP を参照されたい。http://www.shigen.nig.ac.jp/gain/

(文責：友永雅己・松沢哲郎・綿貫宏史朗)